



28P2-am002

## 香醋に対するダイエット臨床試験に関する研究

○具 然和<sup>1</sup>, 水野匡崇<sup>2</sup>, 鹿島泰孝<sup>3</sup>, 糸川由佳<sup>1</sup>, 増淵崇<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>鈴鹿医療科学大学大学院, <sup>2</sup>Sakura Co., Ltd. Res. Cent., <sup>3</sup>Miona Co., Ltd. Res. Cent.)

【目的】現在、食生活やライフスタイルの変化に伴い肥満者が増加しており、それに伴った生活習慣病が問題となっている。本研究では、クエン酸やアミノ酸などの体を構成する物質が多く含まれている香醋を用いて脂質代謝やエネルギー産生に關与の有無を人への生理学的検査値および臨床検査値への影響について検証した。

【方法】20代から40代の男女10名を対象とし、試験カプセル剤を1日2gを12週間毎日摂取させた。飲用0、4、8及び12週後に、身長、体重、体脂肪率等の生理学的検査、血液検査および画像診断を行った。

【結果および考察】その結果、男性にのみ0週と比較して12週目に2.7%の体脂肪率の減少が認められ、男女全体で0週と比較して、時間経過とともにLDL-コレステロールの減少およびHDL-コレステロールの上昇が認められ、総コレステロール濃度の減少が示された。よって、香醋に含まれるクエン酸により体内のクエン酸サイクルが活性化されることにより、脂質代謝が上昇するとともにエネルギー産生能も上昇したと考えられた。さらに、SOD様活性測定では投与群にSOD様活性上昇の統計学的有意差が認められた。これは香醋に含まれるクエン酸が酸化防止剤として働き、活性酸素の低下に影響を与えたことが示唆された。